

7月の気象予報

要素別予報

要素	気温	降水量	日照時間
予報	並	並	並

(平成16年6月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地域平均の要素別「平年並」の範囲

要素	気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島	28.2 ~ 28.6	87.1 ~ 168.1	228.7 ~ 260.0
宮古群島	28.2 ~ 28.6	66.1 ~ 127.7	234.3 ~ 266.3
八重山群島	29.1 ~ 29.5	76.6 ~ 148.0	253.4 ~ 288.0

(平成16年6月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

7月の発生予報概要

作物	病虫害名	発生量		
		沖縄	宮古	八重山
さとうきび	メイチュウ類 アオドウガネ	並 -	並 並	並 並
パイナップル	パイナップルコナカイガラムシ	-	-	並
すいか(施設)	灰白色斑紋病	並	-	-
にがうり(施設)	うどんこ病 モザイク病	- 多	- -	やや多 -
にがうり(露地・平張り)	斑点病 モザイク病	並 多	- -	- -

その他注意すべき病虫害

本文中では (白丸)にて表記

作物	病虫害名	地域
さとうきび	バッタ・イナゴ類	宮古
マンゴー	蛾類・ハダニ類	宮古
うり科野菜類	ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	沖縄

7月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

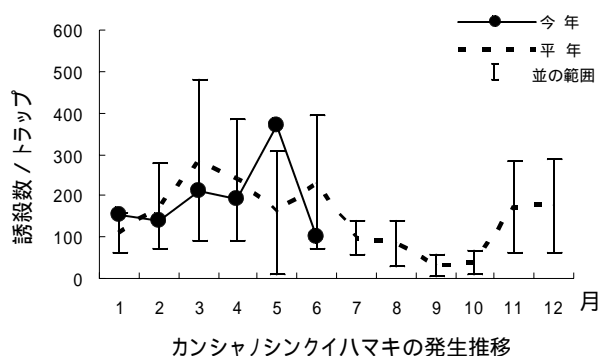
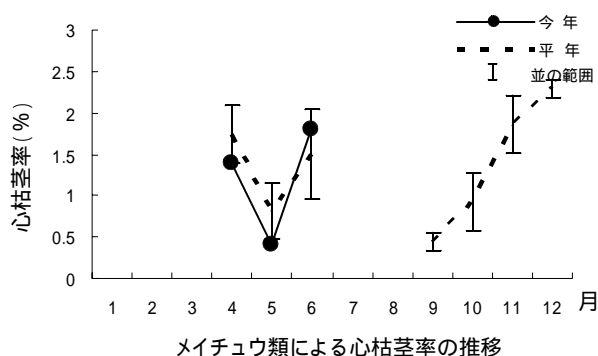
1 さとうきび

(1)メイチュウ類

発生程度： 並

予報の根拠

- a 6月の新植圃場での芯枯茎率は1.8%（前年0.3%、平年1.6%）と平年並であった。
- b 6月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は99.1頭（前年232頭、平年373頭）と平年並であった。



防除上注意すべき事項

- a 加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 植え付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

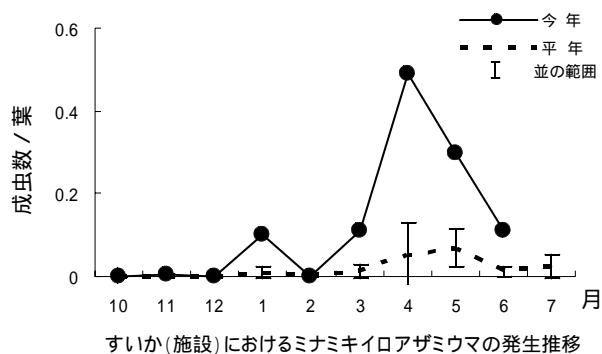
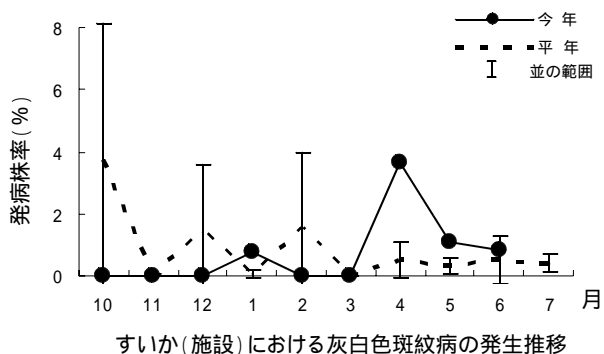
2 すいか(施設)

(1)灰白色斑紋病

発生程度： 並

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、発病株率は0.82%（前年0.08%、平年0.49%）と平年並であった。
- b ミナミキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0.1頭（前年0.06頭、平年0.01頭）と平年より多かった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第1号(平成16年4月30日付け)参照。

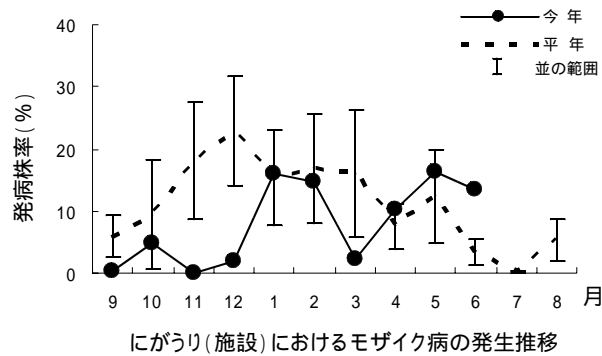
3 iga(施設)

(1)モザイク病

発生程度: 多

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、発病株率は13.4%(前年0%、平年3.3%)と平年より多かった。
- b 一部ほ場で多発生が見られた。



防除上注意すべき事項

- a ほ場周辺の雑草は媒介虫であるアブラムシ類の発生源となるので除草を行う。
- b 近紫外線除去フィルム、シルバーポリマルチの利用、および入口、天窓、側窓にはシルバー寒冷紗等を張りアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- c 果実に奇形が生じて出荷が困難になり被害が大きいため、発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- d 本病は汁液伝染するので、やむを得ず発病株を残す場合は、発病株のある棟の収穫管理作業は最後に行い、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

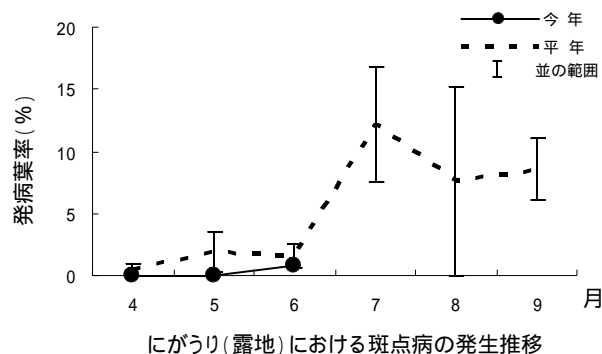
4 iga(露地・平張り)

(1)斑点病

発生程度: 並

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、発病葉率0.8%(前年5.5%、平年1.6%)と平年並であった。
- b 本病は多湿時条件下で発生が助長される。気象予報によると降水量は平年並みの見込み。



防除上注意すべき事項

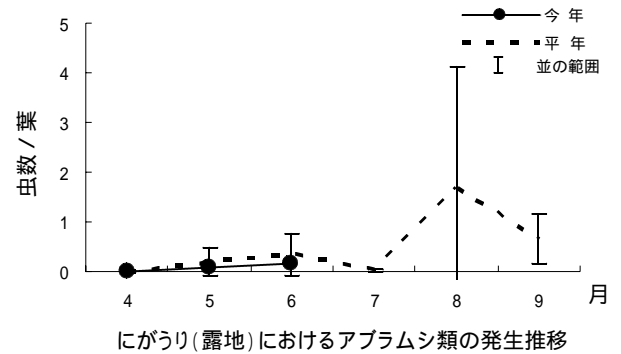
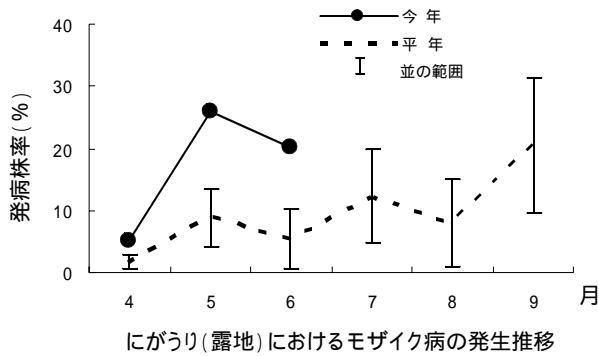
- a 圃場の排水を良くし、密植にならないように注意する。
- b 窒素過多にならないように適正な施肥管理をする。

(2)モザイク病

発生程度： 多

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、発病株率は20.2% (前年0%、平年5.4%)と平年より高かった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は0.16頭 (前年0.65頭、平年0.34頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

平成16年度病害虫発生予察注意報第2号(平成16年6月7日付け)参照

5 うり科野菜

ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)の防除対策について

- a 本種は4月から11月に発生が多い。
- b 6月下旬の調査では、にがうり(施設・露地)、へちまの一部ほ場で発生が見られた。その他、多くのうり科野菜も加害する。
- c 薬剤散布は若齢期が効果的である。中齢以降の幼虫はつづり合わせた葉内にて活動し薬剤の効果が高い。